

いちき串木野市地域学校協働活動

# 学校応援団だより

～できることを できるときに できるところから～ No. 4-13(209)

＝みんなで支える学校 みんなで育てる学校＝ 令和5年1月30日

いちき串木野市地域学校協働活動事業本部

私立高校の入学試験が始まり、各中学校では面接試験の練習が行われました。また、年末には、各校で「今年も良い年であること」を願い、校門を門松で飾りました。ボランティアの方に面接委員や門松づくりを手伝って頂いた、生冠中学校の模擬面接と照島小学校の門松づくりの様子をお知らせします。

生冠中学校では、面接試験の練習を12月13日、1月13日に行いました。面接委員は5名の学校運営協議会委員が引き受けてくださいました。3年生12名を4グループに分け、面接委員が異なる4会場を回り、面接練習を積み重ねました。

まず、生徒たちは、緊張した面持ちでドアをノックして会場に入り、「受験番号、中学校名、氏名」を述べてから、質問を受けました。

主な質問内容は「志望動機」、「思い出」、「関心事」、「自己PR」、「将来の希望職業」、「地域活動」、「尊敬する人」、「中学校自慢」等でした。

生徒は志望動機として、「大学を目指したいこと」、「国公立大学への進学率が高いこと」、「技術を身に着けたいこと」等を回答しました。

思い出の活動では、「生徒会活動や部活動を頑張ったこと」、「運動会で自己ベストを出したこと」等を答えました。



地域活動では「ニンニクの植え付け」、「地域や生徒間でのあいさつ運動」、「高齢者への介護体験」等を回答しました。

自己PRでは「集中力があること」、「プレゼンが上手であること」、「あきらめないこと」、「数学が得意なこと」、「SDGsについて調べ、海洋プラスチック問題に対する対策としてマイバックを持つことを提唱したこと」等を回答しました。

面接が終わった後、面接委員からは「椅子は浅目にかけること」、「背は伸ばすこと」、「面接官の目を見て話すこと」などの指摘がありました。また、「小さな声で答えないように」、「はきはきと文章を短く切って話すこと」等の注意もありました。

最初、声が小さく、質問に答えられない生徒もいましたが、面接回数を重ねるうちに、しっかりとした受け答えができるようになりました。

中学3年生の適応能力のすごさを感じました。

照島小学校では、「良い年になることを」願い、12月19日に正門に飾る門松を作りました。

おやじの会とまちづくり協議会のボランティア5名の方が手伝って下さいました。加えて、保護者の方も多数参加して下さいました。

材料の確保、「竹切り」、「竹の束ね」および「組み立て」等は、おやじの会と先生方が協力して事前に準備して頂きました。組み立てた竹は、軽トラックで運ばれ、竹の長さを調整し、トラックから降ろされ、校門の前に設置しました。3本組の竹が垂直となるように土台に入れ、6年生が土のうや砂で竹を突き固めました。

土台には竹の他に、松、ナンテン、ゆずり葉がバランスよく配置され、土台の縁には、色とりどりのハボタンが植えられました。

土台は子どもたちが裁断した「こも」で巻きました。「こも」は「男結び」で土台に結ばれ、「男結び」はまぐろ漁船に乗船されていたボランティアの方が結び方を指導されました。

最後は、後片付けをし、出来た門松の前で記念撮影をしました。

厳かに、新年に歳神様を迎える風習である門松づくりを子どもたちが体験できたことは、日本の文化を学ぶ良い機会と思いました。

